

令和4年度使用中学校用

教科用図書社会（歴史的分野）
選定に関する参考資料

令和3年6月

三重県教育委員会

令和3年度においては、無償措置法第14条の規定に基づき、無償措置法施行規則第6条各号に掲げる場合を除いて、令和2年度と同一の教科書を採択しなければなりません。なお、令和3年度においては、自由社の「新しい歴史教科書」について、教科用図書検定規則に基づき、検定審査不合格の決定の通知に係る年度の翌年度に行われた再申請により、令和2年度に文部科学大臣の検定を経て新たに発行されることとなったことから、無償措置法施行規則第6条第3号により採択替えを行うことも可能であるとされています。

教科書は、学校における教科の主たる教材として使用しなければならないこととされており、その役割は極めて大きいものです。したがって、採択に当たっては、公正かつ適正を期さなければなりません。

県教育委員会は、各採択地区における社会（歴史的分野）の教科書の採択に先立ち、社会（歴史的分野）の教科書選定に関する参考資料を作成するため、三重県教科用図書選定審議会において令和2年度と同じ調査実施項目を決定しました。これに基づき、令和2年度検定合格図書について、同審議会の調査員が専門的な立場から綿密な調査研究を実施し、その結果を本冊子にまとめました。

関係者におかれましては、この冊子を採択の参考資料として十分活用され、社会（歴史的分野）の教科書の採択事務が厳正かつ円滑に実施されるようお願いいたします。

なお、限られた期間に社会（歴史的分野）の教科書の調査研究を行い、その結果をまとめられた同審議会の調査員の方々に心から感謝いたします。

令和3年6月

三重県教育委員会

1 調査の基本的態度

この冊子は、令和4年度から使用する中学校用の教科用図書社会（歴史的
分野）の採択に当たって、各地区教科用図書採択協議会が独自の立場で行う
教科用図書の調査研究に資するため作成したものである。

さきに県教育委員会が提示した「教科用図書採択地区における中学校で使
用する教科用図書の採択基準」（令和3年5月13日付け教委第05-37
号）が採択の一般的な方針、方法及び手続きの準則を示したものに対し、こ
の冊子は、採択の対象となる個々の教科用図書の調査研究に基づいて、それ
ぞれの特色を明らかにし、採択に当たっての具体的な参考資料として役立つ
ようまとめたものである。

なお、この冊子の作成に当たっては、次の点に留意した。

(1) 公正確保

教科書編集趣意書以外の資料等を排除するとともに、調査員自身の主観
的、独善的な見解を避け、事実に基づいて公正かつ客観的な資料となるよ
う調査研究に努めた。また、所見の記述に当たっては、常にその根拠とな
る事例を明らかにするようにした。

(2) 調査研究の充実

「三重県教科用図書選定審議会調査員（中学校調査員）の調査実施項目」
（令和3年5月13日付け教委第05-37号）を調査研究の「観点」とし
て設定し、分析をすすめた。また、分析結果については同一種目において
発行者ごとの記述がほぼ同じ分量になるよう配慮した。

2 調査結果のまとめ

(1) 調査結果のまとめに当たっては、各種目ごとに調査研究の観点のそれ
ぞれについて着眼点を定め、発行者ごとの特色を観点番号順に記述した。
また、使用上の便宜については、数値で表すことを基本とし、一部の項目
は記述とした。

(2) 記載の順序は、発行者番号の順とした。

令和4年度使用中学校用教科用図書社会（歴史的分野）の発行者別一覧

発行者番号	2	17	46	81	116	225	227	229
発行者名	東京書籍	教育出版	帝国書院	山 川 出 版 社	日本文教 出 版 社	自 由 社	育 鵬 社	学 び 舎
略称	東 書	教 出	帝 国	山 川	日 文	自 由 社	育 鵬 社	学 び 舎

社 会

(歷史的分野)

社会（歴史的分野）

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせながら、課題を追究したり解決したりする学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを多面的・多角的に考察したことや、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりするなど、言語活動に関わる学習のための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、学校図書館や地域の公共施設、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、主体的に調べ分かつようとして学習に取り組む工夫 (4) 学習したことを振り返ったり、新たな問いを見いだしたりすることや、学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることができるような工夫 (5) 博物館や郷土資料館などの施設を見学・調査したりするなど身近な地域の歴史などにおいて、具体的に学ぶための工夫 (6) 生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	今日の課題への配慮

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について 第1節で「歴史をとらえる見方・考え方」を設け、歴史的な「見方・考え方」を学ぶとともに、単元全体を貫く問いである「探究課題」、節ごとの問いである「探究のステップ」、1単位時間の学習のめあてである「学習課題」の3段階の問いを構造的に示したり、歴史的な見方・考え方を働かせる場面を設けたりして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫がされている。〔例〕（P8～13、P19～20等）</p> <p>●着眼点(2)について 小集団での参加型学習「みんなでチャレンジ」のコーナーを設け、対話的な学習活動等を促したり、単元（章）の終末部分に「まとめの活動」を設け、思考ツールを使って学習内容を整理したりするなど、言語活動を充実させるための工夫がされている。 〔例〕（P22、P96～97等）</p> <p>●着眼点(3)について インターネットを活用した学習が効果的な場面に、「Dマーク」や二次元コードが付され、専用のウェブページ等から、学習を支援する情報が得られるようになっている。 〔例〕（P8、P11、P15等）</p> <p>●着眼点(4)について 1単位時間の最後に、「チェック」と「トライ」が付され、学習したことを振り返り、より深められるよう工夫されている。また、近代・現代の「地域の歴史を調べよう」では、身近な地域の将来について構想し発信する場面を設け、社会参画の意識が高められるよう工夫されている。〔例〕（P21、P200～201等）</p>	<p>●着眼点(5)について 「地域の歴史を調べよう」で、身近な地域の歴史を調べる学習の事例が時代ごとに設けられ、調べ方やまとめ方についても例示され、具体的に学ぶ工夫が図られている。〔例〕（P56～57等）</p> <p>●着眼点(6)について 本文での学習内容に関連した「もっと歴史」のページを設け、さらに学習内容を深めたり、広げたり、異なる視点で捉えたりして、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を促すための工夫がされている。 〔例〕（P54～55、P90～91等）</p> <p>●着眼点(7)について ・他教科の学習と関連が強い箇所にはマークが付され、さらに「Dマーク」も付されている箇所は、関連する教科の教科書の紙面がインターネットを利用して見られるよう工夫されている。 〔例〕（P25等） また、第1章では小学校で学んだ人物、文化財、出来事が記載されており、既習の事項とつながりがもてるよう工夫されている。〔例〕（P6～7）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 第1章で「歴史にアプローチ」のページを設け、歴史的な「見方・考え方」を学ぶとともに、1単位時間の最初のページには、学習内容の中心となる資料を大きく掲載したり、「読み解こう」のコーナーを設けたり資料にQを付したりして、生徒が考察できるような問いを設け、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫がされている。 〔例〕 (P7～9、P74～75等)</p> <p>●着眼点(2)について 見開き2ページの終末部分に、「表現!」のマークがあり、学習してきたことを活用して表現できるよう工夫されている。また、各章末に「学習のまとめと表現」が設けられ、時代の特色を自分なりの言葉で表現する活動ができるよう工夫されている。 〔例〕 (P56～57、P92～93等)</p> <p>●着眼点(3)について 「まなびリンク」が各章の扉ページに設けられ、インターネットを利用して発行者のウェブサイトから学習に役立つ様々な情報が得られるよう工夫されている。〔例〕 (P17、P59等)</p> <p>●着眼点(4)について 見開き2ページの終末部分に「確認!」のマークがあり、この時間で学習したことを振り返り、基礎的事項の確認・整理ができるようになっている。また、各章末に設けられた「学習のまとめと表現」で、その時代を大観することで、次章の扉と合わせ、時代の変化に着目できるよう工夫されている。 〔例〕 (P21、P56～57等)</p>	<p>●着眼点(5)について 「身近な地域の歴史」を調べる学習は、第1章及び各時代に設定され、学び方のヒントが「地域調査の手引き」として示唆されている。また、資料に文化財マークが付され、文化財への関心を高める工夫がされている。 〔例〕 (P10～16、P36～37、P31等)</p> <p>●着眼点(6)について 全体で14のテーマ学習「歴史を探ろう」のページを設け、個人やグループで学習を深めることができるよう工夫されている。〔例〕「後藤新平と杉原千畝」(P238～239等) また、各所にコラム「歴史の窓」を設け、本文の学習から生徒の興味や関心を広げられるよう工夫されている。 〔例〕「奥州藤原氏と平泉」(P63等)</p> <p>●着眼点(7)について 第1章では、小学校社会科の学習を振り返りながら、中学校へのスムーズな接続が図られるよう工夫されているとともに、「歴史の技」コーナーの1つとして、「地図を活用しよう」があり、地理的分野との連携が図られている。また、「歴史を探ろう」の特設ページでは、地理的分野や公民的分野に関連する事項に「地理」「公民」マークが付されている。〔例〕 (P2～3、P8、P54～55等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
46 帝国	<p>●着眼点(1)について 第1部で「歴史的な見方・考え方」を設け、歴史的な「見方・考え方」を学ぶとともに、章の問い、本文ページにおける学習課題、振り返り、章の最後の振り返りの流れで、生徒が追究したり解決したりする学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫がされている。 〔例〕(P12、P14～15、P56～57等)</p> <p>●着眼点(2)について 1単位時間の授業の最後に「説明しよう」コーナーを設定し、学習した内容を本文の言葉を使って説明できるようにしたり、章の最後の振り返りにおいて、章の問いをグループで話し合い、解決したりする言語活動を充実させるための工夫がされている。 〔例〕(P57、P93等)</p> <p>●着眼点(3)について 章の最初と最後や「タイムトラベル」等に二次元コードが示され、教科書に掲載している資料の一部をタブレットパソコンなどで閲覧できるようになっており、学習を深める情報が得られるようになっている。 〔例〕(P14、P24、P56等)</p> <p>●着眼点(4)について 1単位時間の最後には、「確認しよう」のコーナーを設け、本文の言葉を使って書き出し、学習の振り返りを行えるようにするとともに、章の最後でも振り返りを行えるよう工夫されている。また、コラム「未来に向けて」を43カ所設け、未来の社会をつくるために参考となる先人たちの取組を紹介している。 〔例〕(P15、P51等)</p>	<p>●着眼点(5)について 第1部において、「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」では、地域社会の人々の協力を得て、調査を進める例が挙げられている。また、「歴史プラス」のコーナーで、18のテーマで地域の歴史を学べるようになっている。 〔例〕(P6～11、P31等)</p> <p>●着眼点(6)について 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせるうえで必要な技能を示す「技能をみがく」のコーナーをはじめ5つのコラムを設け、歴史への興味・関心をもちながら生徒が自主的・自発的に学べるよう工夫されている。〔例〕(P5等)</p> <p>●着眼点(7)について 第1部「歴史をたどろう」では、小学校で学んだ出来事や人物が並べられていたり、節の冒頭に設けられた「タイムトラベル」では時代を概観するイラストが配置されるなど、小学校社会科との連携を図った学習活動を充実するための工夫がされている。〔例〕(P1) また、歴史の転換点となる時代に、見開き2ページにわたってイラスト地図を設け、外国の歴史や文化に興味・関心をもてるようにするとともに、地理的分野との連携を図った学習活動を充実するための工夫がされている。 〔例〕(P42～43等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
81 山川	<p>●着眼点(1)について</p> <p>1 単位時間のテーマの下にその時間の課題を置き、課題は時期・推移・因果関係・差異などに着目し、社会的事象を捉えることができるようになっていいる。その他に写真等の資料から考えさせたい課題や「ステップアップ」でテーマをさらに深める課題を示すことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫がされている。</p> <p>〔例〕(P16～17等)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <p>章末には「まとめ」が置かれ、学習したことをもとに文章で記述するように工夫されている。また、章ごとに「歴史を考えよう」が設けられ、取り上げた課題を話し合い考察できるように課題が設定されるなど、歴史について自分で考えたり、対話したりする言語活動を充実させるための工夫がされている。</p> <p>〔例〕(P60～61、P76～77等)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>二次元コードが付されているところでは、博物館・資料館のホームページサイトや動画を見たり、音声を聞いたりすることができ、学習を深める情報が得られるようになっている。</p> <p>〔例〕(P47等)</p> <p>●着眼点(4)について</p> <p>各章のまとめページである「学習の整理と活用」では、習得した知識を関連させて、各時代の流れや特徴を振り返ることができるよう工夫されている。また、「ステップアップ」の課題では、身の回りの生活や身近な地域と、歴史との関連を気づかせる発問が設定されている。</p> <p>〔例〕(P19、P21、P161等)</p>	<p>●着眼点(5)について</p> <p>「身近な地域を調べよう」の節では、地域学習の方法について、具体例を伴いながら、レポートの書き方や発表の仕方について紹介するとともに、「地域からのアプローチ」のコーナーでは、7つの地域を取り上げ、地域を通しての歴史学習を紹介したりするなど、地域の歴史を具体的に学ぶ工夫がされている。</p> <p>〔例〕(P8～13、P46～47等)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>写真やグラフ、コラムなどにも考える視点を付与し、生徒が自主的・自発的に学べるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕(P17等)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <p>小学校での歴史の学習を踏まえ、諸資料を掲載し、歴史を学ぶ上で資料を読み取ることの重要性を学べるよう工夫されている。〔例〕(P35)</p> <p>また、各時代の世界の状況を通観し視覚的に理解が進むように、地図とイラストで紹介するページが設けられていて、地理的分野との連携が図られている。</p> <p>〔例〕(P26～27等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点(1)について 導入単元の第1編で「歴史的な見方・考え方」を学ぶとともに、本文のページにおいては、1単位時間でどのような視点や方法に着目して学習するかを明らかにするため、「学習課題」「見方・考え方」「深めよう」の問いを示し、課題を追究したり解決したりする学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫がされている。 〔例〕(P12～13、P18～19等)</p> <p>●着眼点(2)について 1単位時間の授業が見開き2ページで構成され、その最後に「確認」コーナーを設定し、学習したことを文章で説明し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着できるよう工夫されている。また、「チャレンジ歴史」のコーナーを設け、歴史について自分で考えたり、対話したりする言語活動を充実させるための工夫がされている。 〔例〕(P136～137、P216～217等)</p> <p>●着眼点(3)について インターネットを活用した学習が効果的な場面に「デジタルマーク」が付され、専用のウェブページにあるデジタル資料で、学習を深める情報が得られるようになっている。 〔例〕(P5、P8、P34等)</p> <p>●着眼点(4)について 各編のまとめページである「学習の整理と活用」では、習得した知識を関連させて時代の特色をとらえ、学習の振り返りができるよう工夫されている。また、「『歴史との対話』を未来に活かす」では、現代の諸課題を振り返り、災害、政治参加、世界平和について考える課題学習が設定されている。〔例〕(P298～305)</p>	<p>●着眼点(5)について 「地域に学ぶ」コーナーを適所に設け、身近な地域から歴史を学ぶことのできる事例を紹介したり、「でかけよう地域調べ」のコーナーでは、地域の歴史の調べ方・学び方を紹介したりして、地域の歴史を具体的に学ぶための工夫がされている。〔例〕(P39、P60～61等)</p> <p>●着眼点(6)について 歴史学習を進めるにあたって必要な技能を示す「スキルUP」のコーナーを設けており、生徒が自主的・自発的に学べるよう工夫されている。 〔例〕(P8～10等)</p> <p>●着眼点(7)について 本文ページの欄外に「小学校連携コーナー」を設け、主に小学校や地理・公民とのつながりを示し、小学校社会科や他分野との関連を図った学習活動を充実するための工夫がされている。 〔例〕(P30等) また、各編のまとめページである「学習の整理と活用」では、地理的分野とも連携を図り、年表と地図を使って学習の振り返りができるよう工夫されている。 〔例〕(P62～63等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
225 自由社	<p>●着眼点(1)について 各章の導入ページには、小学校で学習した内容を中心に年表を記し、その時代を概観できるようにしたり、時代を象徴的に表している資料を取り上げ、2人のキャラクターのやりとりにおいて、課題を投げかけたりすることで、学習に対する興味・関心を喚起し、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫がされている。 〔例〕 (P19、P69 等)</p> <p>●着眼点(2)について 見開きの右ページの一番下に、「チャレンジ」のコーナーを設け、毎時間の学習の後に課題を投げかけ、その時間の学習内容を説明したりまとめたりする活動を通して、言語活動を充実させるための工夫がされている。 〔例〕 (P29、P55、P59 等)</p> <p>●着眼点(3)について 各章に「調べ学習のページ」を設け、図書館や博物館等における調べ学習を例示したり、インターネットを活用した情報収集の仕方などを示したりして、情報を効果的に調べ、まとめる技術を身につけることができるよう工夫されている。 〔例〕 (P100、P144、P283 等)</p> <p>●着眼点(4)について 各章の最後には「対話とまとめ図のページ」を設け、学習した内容を対話形式で振り返り、歴史と自分たちの生活を身近に関連づける工夫がされている。 〔例〕 (P254、P288 等)</p>	<p>●着眼点(5)について 序章に「地域の歴史を調べる」という節を設け、堺市の歴史を例にとり、4つの視点から調査等を行った様子を紹介したり、各章の後半に「調べ学習のページ」を設け、修学旅行や地域の博物館等を見学して学んだことをまとめたりするなど、地域の歴史を具体的に学ぶための工夫がされている。〔例〕 (P12～15、P64～65、P144～145 等)</p> <p>●着眼点(6)について 「知っ得ポイント!」など多彩なコラムや「人物クローズアップコラム」「外の目から見た日本」など特設ページを設け、歴史学習への興味、関心、意欲が高まるよう工夫されている。 〔例〕 (P49、P141、P143 等)</p> <p>●着眼点(7)について 序章に「人物を通して時代をとらえる」の節を設け、小学校の歴史学習で学んだ主な人物42名を挙げ、事典等で調べて、人物カードや800字程度の人物伝記を作成するように促し、小学校社会科との関連を図った学習活動を充実するための工夫がされている。 〔例〕 (P16～18)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
227 育鵬社	<p>●着眼点(1)について 各章の導入ページには、時代の範囲の確認やその時代を鳥の目でながめる工夫、その時代を象徴的に表している資料を虫の目でながめ、問いを引き出す工夫がされている。また、各時代において「歴史のターニングポイント」というページが設定され、様々な資料をもとに詳しく掘り下げて考え、意見交換し議論するなど、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。 〔例〕 (P64、P98 等)</p> <p>●着眼点(2)について 見開きの右ページの一番下に、毎時間の学習で学習課題を捉えることができたか確認する表現活動や各章の「学習のまとめ」、「歴史学習のまとめ」における表現活動が設けられたりして、言語活動を充実させるための工夫がされている。 〔例〕 (P25、P66～67 等、P290～293)</p> <p>●着眼点(3)について 各時代に「『私の歴史博物館』をデザインしてみよう」というページを設け、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技術を身につけることができるよう工夫されている。 〔例〕 (P65 等)</p> <p>●着眼点(4)について 各章の最後には「学習のまとめ」が配置され、学習した内容を振り返り、活用しながら、その時代の歴史や日本の歴史を概観しながらまとめることができるよう工夫されている。また、「歴史の旅を始めよう」等のページを設け、歴史と自分たちの生活を身近に関連づける工夫がされている。 〔例〕 (P6～7、P66～67 等)</p>	<p>●着眼点(5)について 「地域の歴史を調べてみよう」というテーマで、大阪と横浜が例に挙げられている。その中で、調査の仕方やまとめ方についても例示され、生徒が地域の歴史を具体的に学ぶための工夫がされている。〔例〕 (P13～18、P156～159)</p> <p>●着眼点(6)について 「歴史ビュー」や「人物クローズアップ」など多彩なコラムや「なでしこ日本史」など特設ページを設けたり、「『私の歴史博物館』をデザインしてみよう」で生徒自身が歴史博物館の学芸員になったつもりで学習したりするなど、歴史学習への興味、関心、意欲が高まるよう工夫されている。 〔例〕 (P35、P61、P65、P68 等)</p> <p>●着眼点(7)について 序章では、小学校で学習した歴史上の人物42人の似顔絵を活用し、生徒が小学校での社会科の学習を振り返りながら学習を始められるよう、小学校と中学校の学習の連携が図られている。 〔例〕 (P8～9) また、本文では地図と歴史的事象を関連づけることができるよう地図が適所に配置され、地理的分野との連携を踏まえて、多面的・多角的に考察する力を養う工夫がされている。〔例〕 (P30 等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
229 学び舎	<p>●着眼点(1)について 1 単位時間が見開き 2 ページで構成され、見開きの左上に大きな図版の配置、生徒の興味がわくよう毎時間のタイトルの工夫、タイトルの下に学習課題を置くなど、生徒が問いや疑問をもち、歴史の事象や課題について多面的・多角的に考え表現できるように工夫されている。〔例〕(P12 等)</p> <p>●着眼点(2)について 各時代のまとまりを表す部の最初に、各時代の学習課題を設け、疑問を出し合いながら学ぶような工夫や、章の最後には、各時代の特色を多面的・多角的に考察して自分の言葉で表現できるような言語活動を充実させるための工夫がされている。〔例〕(P11、P55、P34 等)</p> <p>●着眼点(3)について 章の最後に「歴史を体験する」特設ページが設けられ、インターネットを利用した調べ学習の例示がされている。〔例〕(P104、P210)</p> <p>●着眼点(4)について 章の最後には、地図や年表などを活用して、学習したことを振り返って基本的な知識の定着を図ることができるよう工夫されている。また、グループ活動等を通じて、時代の特色等を振り返る表現活動が行えるよう工夫されている。〔例〕(P52～53 等)</p>	<p>●着眼点(5)について 「歴史を体験する」では、体験から歴史を学ぶ方法や、地域の郷土博物館や地域の歴史の調べ方などを紹介したり、本文中の資料に地域の文化財等を各所で取り上げたりするなど、具体的に歴史を学ぶ工夫が図られている。〔例〕(P34～35、P105、P132～133 等)</p> <p>●着眼点(6)について 各時代の最後に置かれた「学習のまとめ」では、グループ活動等を通して思考力・判断力・表現力を深められるような課題が設定され、学習したことを振り返りながら学べるよう工夫されている。〔例〕(P52～53、P84～85 等)</p> <p>●着眼点(7)について 巻末の年表には、「日本の社会・政治・経済の働き」という項が設けられ、歴史的事象を公民的分野とも関連づけられるよう工夫されている。〔例〕(P282～293) また、章の扉には、北極を中心とした世界地図を描き、章のテーマに基づいたその時代の各地の様子を表す写真や絵を配置し、本文では地図と歴史的事象を関連づけることができるよう地図が適所に配置され、地理的分野との関連を図った工夫がされている。〔例〕(P10～11 等) 小学校との連携について、冒頭の「歴史を楽しく学ぼう」において小学校で学習した人物や文化遺産についてカードにまとめる学習が示されている。〔例〕(P6～7)</p>

2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称	総 ペー ジ	(1)内容別配当の分量							(2)教材・資料等の分量										
		A歴史との 対話		B近世までの 日本とアジア			C近現代の 日本と世界		文 献	図 版・ 写 真	地 図	統 計 資 料	年 表	読 み 物 資 料	注 釈・ 用 語 解 説	表 現 活 動 例	見 方・ 考 え 方 の 例 示	二 次 元 コ ー ド に 類 す る も の	三 重 県 に 関 わ る 記 述 等
		(1) 私 た ち と 歴 史	(2) 身 近 な 地 域 の 歴 史	(1) 古 代 ま で の 日 本	(2) 中 世 の 日 本	(3) 近 世 の 日 本	(1) 近 代 の 日 本 と 世 界	(2) 現 代 の 日 本 と 世 界											
2 東書	295	8	4	44	36	50	102	34	83	613	78	38	13	90	115	122	109	22	○
17 教出	298	8	7	42	36	50	108	36	53	576	68	37	12	19	189	121	74	6	○
46 帝国	292	5	7	44	36	54	108	30	64	607	82	43	10	96	162	113	67	26	○
81 山川	288	3	6	48	40	52	100	30	57	435	76	45	10	28	179	87	64	18	○
116 日文	317	8	(11)	50	42	52	102	38	55	654	98	45	77	44	185	96	250	14	○
225 自由社	300	8	4	50	36	44	106	34	50	564	80	16	24	85	156	53	6	0	○
227 育鵬社	302	5	6	49	34	52	102	37	37	534	70	33	12	30	204	81	20	0	○
229 学び舎	299	6	2	44	32	50	110	36	64	677	102	27	12	126	130	4	6	1	○

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫 等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に使う用紙は軽くて裏写りしない強度の高い紙が用いられ、造本は堅牢で長期の使用に耐えられるようになっている。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を向上させるとともに、立体感等を省いた「フラットデザイン」を採用したり、グラフや地図などで色覚特性のある生徒にも配慮したりしている。 ・同一の写真・グラフ・地図を3分野共通で掲載し、他分野との関連を示すことで、1つの事象を各分野の視点から考察できるようになっている。
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・A B判で作られ、大きく開き、造本は堅牢で長期の使用に耐えられるようになっている。 ・色覚等の特性を踏まえ、範読しやすいカラーユニバーサルデザイン、レイアウトや、表現方法、カラーユニバーサルデザインフォント等の工夫がされている。 ・本文紙面は、1時間の授業を見開き2ページで構成し、学習の見通しがつきやすいようになっている。
46 帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に使う用紙の軽量化を図るとともに、用紙やインクには環境に優しい素材を使い、使用期間の間、壊れることのないよう堅牢な造本となっている。 ・文字は読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用するとともに、グラフや地図、折れ線グラフなども、色覚に特性のある生徒にも配慮されている。 ・A B判で、写真や地図、読み物資料などが大きく見やすく配置され、歴史への興味・関心が喚起されるように工夫されている。
81 山川	<ul style="list-style-type: none"> ・A B判で作られ、大きく開き、造本は堅牢で長期の使用に耐えられるようになっている。 ・地図・グラフは、カラーユニバーサルデザインに配慮した編集となっている。文字はユニバーサルデザインフォントが用いられている。 ・各テーマの基本色を日本史と世界史で分けられ、今学んでいることが日本のことか世界のことかわかるよう工夫されている。
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・A B判で作られ、大きく開き、かつ閉じにくくなっていて、造本は堅牢で長期の使用に耐えられるようになっている。 ・ふりがなを全てゴシック体にしたほか、図版の配色や体裁に至るまで、ユニバーサルデザインに配慮した編集となっている。 ・見開き2ページにわたり、図版、写真、年表、読み物資料などがバランス良く配置されている。
225 自由社	<ul style="list-style-type: none"> ・A B判で作られ、大きく開き、造本は堅牢で長期の使用に耐えられるようになっている。 ・図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色が使用され、ルビにはゴシック体が用いられている。 ・本文紙面は、1時間の授業を見開き2ページで構成し、小さなコラムなどで本文を補足・発展させ、歴史への興味・関心が喚起されるように工夫されている。
227 育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ・A B判で作られ、大きく開き、堅牢で長期の使用に耐えられるようになっている。 ・図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色が使用され、ルビにはゴシック体が用いられている。 ・A B判の判型で図版や写真などの資料が大きく掲載され、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。
229 学び舎	<ul style="list-style-type: none"> ・判型をA 4判とし、豊富な資料と記述を盛り込めるよう工夫されている。 ・歴史地図・グラフをカラーユニバーサルデザインにし、色覚特性の個人差に配慮されている。 ・見開き2ページの左上に大きな図版を配置し、生徒が観察をし、疑問を出したり発見したりできるよう工夫されている。

3 その他

今日的課題への配慮	
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・平和に関する記述として、「もっと歴史」や「地域の歴史を調べよう」の特設ページ等において、同和問題や、アイヌ民族、琉球王国、在日韓国・朝鮮人の歴史を取り上げたり、「広島復興と平和への思い」などが取り上げられている。〔例〕P87、90～91、122～123、140～141、240～241、253、276～277 ・「領土の画定」及び我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題については、本文中のページで「6 領土をめぐる問題の背景 領有の歴史的な経緯」と題して、竹島、北方領土、尖閣諸島について学ぶことができるようになっていく。〔例〕P180～181 ・三重県についての主な記述等では、「現代に生きる神話」で伊勢神宮の内宮の写真（P55）、「宿場の町並み」で亀山市の関宿の写真（P127）、本文中における本居宣長に関する記述（P134）、本文中における四日市ぜんそく（P263）の記述と写真「大気汚染対策としてマスクをして通学する子どもたち」がある。
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者育成の観点から、各時代の中で、現在の政治制度や人権意識につながる事項については、内容を拡充して扱うとともに、「歴史学習の終わりに」と題し、歴史の学習を振り返りながら、現代の課題について考えてみるページが設定されている。〔例〕P289～291 ・「領土の画定」及び我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題については、「歴史を探ろう」の特設ページを設け、北方領土、竹島、尖閣諸島について学ぶことができるようになっている。〔例〕P268～269 ・三重県についての主な記述等では、本文中に本居宣長の記述（P138）や江戸時代末における伊勢神宮の「おかげ参り」（P164）、図版「地租改正の反対一揆」（P171）の記載がある。
46 帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・平和についての学習では、「コラム～〈対話的な学び〉のために～」で人権では17の題材、平和では8つの題材を取り上げ、多様な視点から学べるよう工夫されている。 ・「領土の画定」及び我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題については、開国以来の日本政府の取り組みが国際法に則ったものであることがコラムや本文ページを使って説明されている。〔例〕P179～180、P266～267 ・三重県についての主な記述等では、本文中に本居宣長に関する本文記述（P140）、地租改正反対一揆における本文中記述と図版、本文中における四日市ぜんそくの記述と写真「小学校の校庭で遊ぶ子どもたち」（P271）がある。
81 山川	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題につながる歴史的な事象について、「地域からのアプローチ」や「歴史へのアプローチ」といった特設ページで取り上げ、さまざまな角度から学ぶことができるようになっている。 ・「領土の画定」及び我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題については、「歴史へのアプローチ⑩」のページで、北方領土や竹島、尖閣諸島について歴史的に深くほり下げて解説を行っている。（P266～267） ・三重県についての主な記述等では、本居宣長に関する記述（P144）、本文中における「伊勢神宮を参拝する伊勢参り」の記述（P145、171）、写真「朝鮮通信使をまねた踊り（三重県の唐人踊り）」（P176）、図版「日本の主な公害と四大公害訴訟」における四日市ぜんそく（P271）の記述がある。
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題について、その歴史をふり振り返り、先人たちの知恵に学びながら、学習を進める課題例として、「災害の歴史に学ぶ」「政治参加の歴史に学ぶ」「世界平和の取り組みに学ぶ」を取り上げ、学ぶことができるようになっている。〔例〕P298～305 ・「領土の画定」及び我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題については、特設ページで「冷戦終結後の近隣諸国との関係」と題し、日本の領土と賠償問題と歴史認識について取り上げられている。（P292～293） ・三重県についての主な記述等では、図版「江戸の商人」で伊勢から出た三井家（P135）、国学（P151）のコーナーで本居宣長と『古事記伝』等、読み物資料地租改正一揆「-竹槍で突き出す-」（P169）、図版「松浦武四郎がつくった蝦夷地の地図」（P176）、年表内における四日市ぜんそく（P295）の記述がある。
225 自由社	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題について、その歴史をふり振り返り、先人たちの知恵に学びながら学習を進める課題例として、第6章の後半に「時代の特徴を考えるページ 現代（昭和後半・平成）とはどんな時代だったのか」を取り上げ、学ぶことができるようになっている。（P287） ・「領土の画定」及び我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題については、本文で「近隣諸国との国境画定」と題し、日本と近隣諸国との国境の画定について学べるようになっている。（P172～173）また、北方領土及び竹島については、本文中の記述や欄外のコラムから学ぶことができるようになっている。（P262～263） ・三重県についての主な記述等では、コラムにおける本居宣長に関する記述（P134）、写真「天照大神を祀る伊勢神宮の内宮正宮」の記述（P38～39）、本文と写真に松尾芭蕉の記述（P128～129）、本文中における四日市ぜんそくの記述（P267）がある。
227 育騰社	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史ズームインというページを設け、太平洋戦争（大東亜戦争）に関わる証言や手記を掲載し、我が国と郷土の現状と歴史について理解をする一助となっている。（P248～249） ・「領土の画定」及び我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題については、「歴史ズームイン」の特設ページを設け、北方領土、竹島、尖閣諸島について取り上げ、学ぶことができるようになっている。（P266～267） ・三重県についての主な記述等では、伊勢神宮に関する記述（P44、50、57、132）、伊勢参りに関する記述（P132、145）や読み物資料地租改正一揆「-竹槍で突き出す-」（P169）、図版「歌川広重の浮世絵 東海道五十三次 庄野」（P151）、四日市ぜんそくの本文記述と図版四日市コンビナート（P271）がある。
229 学び舎	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争の惨禍に関する本文や図版において、世界史教材が多様に設定され、国際社会の平和と発展に寄与する態度を培っていけるよう工夫がされている。 ・「領土の画定」及び我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題については、北方領土は本文中において（P257）、尖閣諸島と竹島についてはそれぞれ関係する時代のページの欄外に取り上げられている。尖閣諸島（P185）、竹島（P18） ・三重県についての主な記述等では、読み物資料「国学を大成させた本居宣長」（P125）や読み物資料地租改正一揆「-竹槍で突き出す-」（P169）、図版「松浦武四郎がつくった蝦夷地の地図」（P176）、図版「四大公害裁判」における四日市ぜんそく（P263）の記述がある。